

5. #Me too から #We too へ

—もうわたしたちはガマンしない—

しずおか女性の会

代表 島田 充子

1. 事業目的

2015年、「すべての女性が輝く社会」の実現というスローガンのもと、国は「女性の活躍推進法」を制定しました。女性たちは少子高齢化社会で今や重要な働き手となったものの、日本社会では、女性を男性と対等な人格として認め、女性が能力を発揮できるような環境を整えるまでには、至っていません。

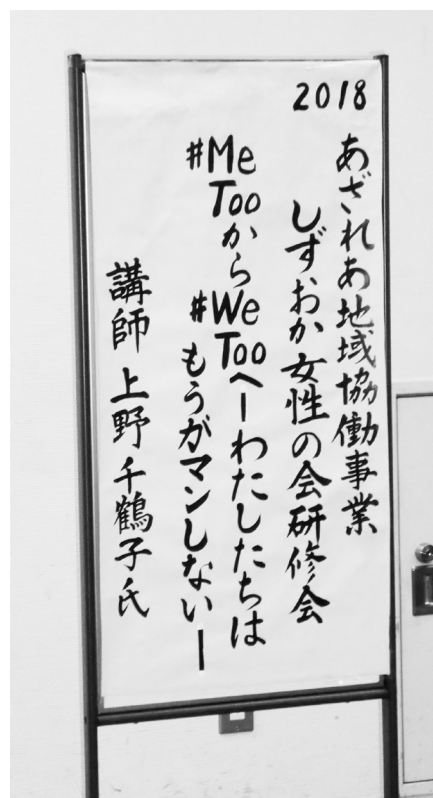
前事務次官らのセクハラ発言問題では、この問題への「嵌められ発言」など、日本社会の実相が浮き彫りになりました。政権中枢のリーダーでさえジェンダーに対する意識が旧態依然、女性の人権を軽視する傾向が強いのです。

内閣府男女共同参画局は、そんな現状を踏まえて、女性が直面している様々な困難が解消された「フェアネスの高い社会」の構築を掲げ、「女性活躍加速のための重点方針2018」のひとつに「女性に対する暴力（ハラスメント）の根絶」を打ち出しています。

「あざれあ地域協働事業」応募を機に、わたしたち自身もフェアネスな社会実現のための担い手となるよう、「女性に対する暴力（ハラスメント）の根絶」を目的とした講演会を企画しました。

2. 事業内容

講師に、上野千鶴子氏（WAN 理事長・東京大学名誉教授）をお招きして、セクシュアルハラスメントのみでなく様々なハラスメントに対しての社会の実情を学んだ。女性たちが声をあげて、働きやすく生きやすい社会を闘い取っていくこと、また、ミソジニー（女性蔑視）の強い古い日本の社会体質に気づき意識変革を求めていく知恵を頂いた。



3. 実施日時

平成 30 年 9 月 15 日（土）13:30 ~ 15:30

4. 実施場所

静岡市女性会館 アイセル 21 研修室

5. 対象者

一般市民

6. 参加人数

101 名（その他：一時保育（託児） 4 名）

7. 事業の成果

【基調講演】

「#Me Too から #We Too へ—もうわたしたちはガマンしない—」

講師：上野千鶴子さん

<伊藤詩織のセクハラ告発>

○伊藤詩織『ブラックボックス』文芸春秋

- ・実名による告発のインパクト
- ・女性ジャーナリストの被害
- ・二次被害・バッシング

○福田次官のセクハラ発言

- ・「手縛ってあげる、胸触っていい」人権侵害
- ・よくしらばっくれると思う

・何が問題なのか—上司が握りつぶす。他のメディアに売る。加害者が否認した→2次加害。さらに報道の倫理問題にすり替えられて調査しない。加害者の擁護と組織防衛に走る。名乗り出るように促す。財務省の顧問弁護士に名乗り出るようなど、財務省の立場の弁護士に名乗り出るなど。

・事実を認めないまま退職してしまった。5300 万円の退職金少々の減額のみで、早々の

幕引きをはかった。

○麻生大臣発言の何が問題なのか？

- ・「福田の人権はなしってわけですか。」
- ・「被害を受けた記者が名乗り出ないと判断できない」

幕引きをはかった。

- ・「次官担当を男性記者に変えればいい」
- ・「(福田が) はめられてうたえられているんじゃないか」

幕引きをはかった。

・「セクハラ罪という罪はない、殺人罪とは違う」

- ・「セクハラは親告罪」

<セクハラ被害者へのバッシングは許さない

盛り上がった #Metoo、#Wetoo 運動>

#私は黙らない 0428 @新宿アルタ前

#MeToo #WeToo #WithYou #もう終わりにしよう！

・先輩の女性たち「私たちが、我慢し黙認してきたことが、最悪の結果を生んだ」。

○江南ミソジニー（女嫌い、女蔑視）殺人事件 2016

・対抗する韓国の女性たちの声をソールの女性センターが（私は生き延びたから私は黙らない）回収しアーカイブスにして抗議する。

○新聞労連全国女性集会

○『女子をこじらせて』雨宮まみ AVライター脱ぐためのおかずを作る。当事者研究は読み手の研究を誘発する。

○中島京子 男にとって便利な女になっていた。もし、私たちの世代がちゃんと声を上げれば、少しは社会も変わっていたかもしれない。詩織さんが一人で頑張らなければならない状況にしてしまい本当に申し訳ない。

<大学内での女性蔑視>

○東京医科大不正入試問題 男子学生と女子学生の点数に差をつけ、男性優位にした。

○1993 年京都大学矢野事件 秘書が辞めたわけを聞きに行くとセクハラ被害が明らかにな

り、京都大女性の教官懇話会を立ち上げた。事実と認定された。

○東大では 1994 年に女性研究者懇話会を立ち上げる。

・まさかあの人とは絶対思わなくなりました。

・学校ほどやりやすい場所はない

・裁判の維持の困難（取り下げと和解への圧力）—TOKIO 山口達也のセクハラと女子高生の告発取り下げ

— 沖縄米兵レイプ事件

— 大阪府知事横山ノック事件

・法的解決で得られるものの少なさとコストの大きさ



<セクハラの定義>

労災、職務上の権力の行使、望まない性的接近、職務の継続を阻止。

対象型セクハラ、環境型セクハラ、泣き寝入りから、申し立て告訴へ、勝訴率が高い、賠償金の高額化。

<加害者意識の低さ>

○加害者の共通性

リピーター（ノーと言えない相手や状況を選ぶ）、加害の自覚がない、状況を自分に有利に解釈することに長けている。自己中心性、責められると、逆切れする、攻撃性が強い。

○加害者が困惑

僕は同じことをしているだけ、女性がかわった、世代、意識、社会通念。

<加害者にも被害者にもならないために>

権力の濫用を抑制できるか？／弱者を尊重できるか？

権力に迎合せずにはすむか？／イヤなことをイヤと言えるか？

自分を尊重できるか？／相手を尊重できるか？

→人権教育（自己尊重の教育）の大切さ

<ミソジニー社会・家父長制から継承する男の権力の誇示>

○セクハラは何が問題か

性的自己決定権、ジェンダーの実践、お前は女だ、思い知れという差別化に伴う権力の誇示。

○女とは何か

・男でない、男の（欲望）ために存在するもの。

・DV 男はなぜ、妻を殴るか、自分の持ち物だから、相手の自我を認めていない。

★日本の DV 被害経験率は高い。1995 年フェミニストアクションリサーチ調査では年 59% と高い。2005 年内閣府男女共同参画局調査でも 26.7%。

日本には性暴力禁止法はない、韓国は作った。

<ハラスメントのない社会を！>

○フェミニズムの達成＝曖昧な言葉が、定義された

—「性的からかい」「いたずら」→「セクハラ」

—「痴話げんか」→

DV（夫や恋人からの暴力）

—「痴漢は犯罪です」

—「つきまとい」→「ストーカー」（復縁殺人）

など

<最後に — 非暴力は学べる>

暴力が学べるものならば非暴力も学べるはず。

その学ぶ場はどこか —

— 育児、介護、障がい者のケア

今まで、長いこと女たちが実践してきた、絶対的非対称な権力関係の下で、持っている権力を濫用しないで、濫用する誘惑に打ち勝ち続ける、非暴力を学ぶ実践の場に男たちを放逐しないで招き入れること。

男たちも、女たちと同じ経験を、非暴力の学びをすることが必要。



【グループ討論】

講義が終わってから、まわりの人6人くらいでグループで感想を話し合った。

<抜粋>

(男性2人、女性2人のグループ)

・女性(60~70才代)の意見

現在のセクハラのような言葉をかけられたこともあったのかも知れないが軽く受け流していた。嫌ならすぐやめてもいいとの考え(嫁に行くまでの腰掛!!)で働いていたのではっきり「やめてほしい」と言えたのかもしれない。

・男性(60~70代)の意見

意識せずにセクハラ・パワハラになるような言葉を使っていたとは思いますが会社で研修を受けるようになって修正していった。

いくら研修をうけても直らない人もいる。幼少期からの育ち方の違いだと認識している。家庭の夫婦のありようが影響する。

(男性4人、女性3人のグループ)

・男性の意見

きれいとかも言えないと何を言ったらいいのか

⇒女性には気を使う。

・男性の意見

女性が少しずつ増え、やはり、トイレなども少なく、苦勞していた。セクハラもあったと聞いている。女性が増えて、少しずつ改善している。

・男性の意見

女性の少ない職場でとても女性を大事にしていたと思う。

・女性の意見

テレビ放映された、パワーハラスメントの関する事件内容を分かりやすく聞く事が出来た。先生のお話から「ああこういう事も我慢していたんだ。我慢なくていいんだ」とハラスメントを意識する事が出来た。

・まとめ

家庭教育の大切さを再認識した。

私達は意識をして、政治家への投票をしたいね。



【上野先生への質問】

①富士市の人

高校は共学に行こうとしたが、女子高に行けば、男子が一人入るといわれ、女子高に変更した。女性は力をつけてきた。

②学生

夫婦別姓も法律が通らない。セクハラ、医大入試での女性差別など一時的には盛り上がっているがムーブメントのようにするにはどんなアクションが必要か。

③25歳

派遣女性が辞めていった。管理職として加担し

てしまったようで職場では管理職とはいえ女性の立場の弱さを実感している。

④不明

今の政治は良くないが変えるためにどんな運動をしていけば良いのか。アドバイスを。



<上野先生のまとめ>

- ・女性の政治家を増やしたいが増えない。立候補の壁は家族、何より夫。
- ・法律はなかなか変わっていかないがこれまでの運動で、セクハラがここまで問題になっている。感動的事実。諦めないこと。
- ・政治にどうつながっていくか気の長い話になるが、大事なものは足元から変えていくこと。
- ・夫婦、両親の男女関係が大切と思う。
- ・わたしは現場で目くじら立ててきた。みなさんも、引き継いでください。

8. 今後の展望

講座の内容やディスカッションの様子をまとめて冊子を作り、参加できなかった会員などに配布したい。

また、男女共同参画について、SDGsに基づいた事業を展開したい。

9. 協働団体

しみず女性の会

ゆい女性の会

NPO 法人よしよし

メンズサポートしずおか

NPO 法人男女共同参画フォーラムしずおか

10. その他 (アンケート結果)

回収 66 件

1. 今日の講演はどうでしたか	
大変良かった	49
良かった	13
普通	0
あまり良くなかった	0
無回答	4
2. グループ討論、質問などはどうでしたか	
大変良かった	19
良かった	35
普通	6
あまり良くなかった	1
無回答	5
3. この講座を知ったのは	
チラシ	34
ネット	3
知人、友人から聞いた	22
その他	5
無回答	2
6. あなたの性別	
女	30
男	3
無回答	33
年代	
20代	2
30代	5
40代	9
50代	10
60代	23
70代	10
80代以上	3
無回答	4
職業	
①会社員	6
②公務員・団体職員等	8
③自営業	3
④パート・アルバイト	9
⑤無職(主婦を含む)	19
⑥学生	1
⑦その他	9
無回答	11
7. あなたの居住地	
葵区	27
駿河区	17
清水区	8
市外	11
無回答	3